

# 異文化と 心通わせ

(57)



東京都内のホテルで行われたのである国際会議で仕事をさせていただいたとき、休憩時間にある女性と食事をしました。彼女は落ち着いた雰囲気の方だったので、大学3年生だとうかがったときには、西橋さんはお父さんの話せるものの漢字には難しさを感じる話し方でした。その海外生活の影響から将来は日本の文化を世界に紹介する仕事を選びました。その後、西橋さんはお父さんと一緒に日本文化を世界に紹介する仕事を選んでいました。

正直驚きました。  
その女性、西橋恵美さんは現在、早稲田大学国際教養学部に通っています。6月に1年間のユーロークへの留学を終り、日本の大に戻ってきました。もうすぐ就職活動なんですね…。でも実は日本語にまだ自信がなく日本語による会話が苦手な西橋さんはお父さまのインドに渡り、18歳まで暮らしていました。9歳までのインドの現地の小学校へ通い、両親が日本へ帰国した後も本人の希望でインドに残り、高校卒業まで世界中の人が集まる全寮制のインターで生じて」。外国生活が長かつた。

# 日本からみたインド

「ところが、今では最近が話題で、今までの授業の授業はこんな風でして、結構大さはいい感じに厳しくなる。でも、もうやめよう。」  
例え、最後までと想定されると、座りこなすのが、うかみまし

で考えた  
うつてもが  
自分の  
めは日本  
のはなか  
な自分の  
たらして  
忙しいし  
と、例え  
食べたり  
するし。  
違うから  
いと思う  
うしても  
ループ意  
を)した  
うしても  
イングで  
いたちに日  
いろと聞  
です。日  
それま  
さんある  
のじみを  
えたい、

本の食文化  
に興味を持  
て、インターネット  
で友人た  
かしい友人  
月まで(6月  
でき、各公  
で活躍して  
それから、  
母さま、西  
書かれた  
がみたノイ  
(日本刊行  
でみた人に  
い貴重な娘  
での子育て  
大変だった  
かれていた  
の生活が、  
うで私は書

やべつてはいるからだそう  
です。「6歳で全寮制の  
インターナショナルスク  
ールへ移つてから、各国  
の人たちとの学校生活は  
と修業するつて聞いて、  
お寿司なんてちゃんと握  
られるまでに何年もすつ  
てもう少し練習すれば、  
手が込んでいたら、彩り  
とか形がきれいだつたり。  
も出来上がるまですこし

A black and white photograph of a person sitting on a bench outdoors. The person is wearing a dark jacket over a light-colored shirt and light-colored pants. They are sitting with their legs crossed, looking down at something in their hands. The background is a dense, dark forest with sunlight filtering through the trees.

写真は高校2年生の「ひの西橋さん（右）」です。インターナショナルスクールでは「なりすま」の一週間」という変わったイベントがあり、「」の時はヒッピーになりますました由だそうです